

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 64 人 国語B 64 人

② 算数A 64 人 算数B 64 人

5 留意事項

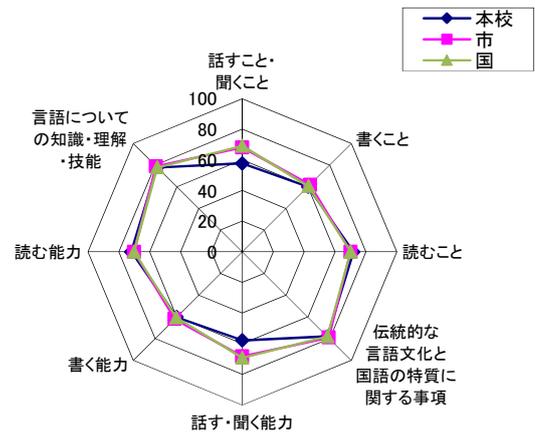
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

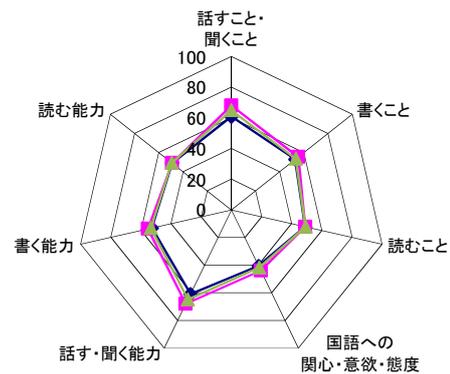
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	57.8	68.2	69.2
	書くこと	60.2	62.0	60.6
	読むこと	71.9	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.0	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	57.8	68.2	69.2
	書く能力	60.2	62.0	60.6
	読む能力	71.9	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	78.0	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	60.9	68.0	64.9
	書くこと	52.8	55.3	53.4
	読むこと	49.0	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	40.6	43.9	41.7
	話す・聞く能力	60.9	68.0	64.9
	書く能力	52.8	55.3	53.4
	読む能力	49.0	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

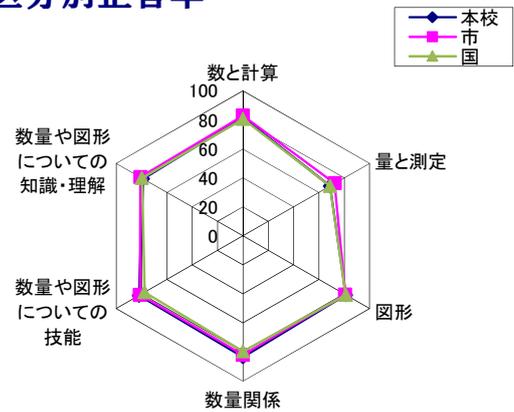
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aの平均正答率が57.8%, 全国正答率が69.2%でより11.4ポイント下回った。互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理することに課題が見られた。	・話し合い活動では、話し合いをただ聞くだけではなく、共通点や相違点を整理しながら聞く指導を重点的に行う。
書くこと	○国語Aの平均正答率は60.2%, 全国が60.6%でほぼ同じである。 ●お礼の気持ちを伝える手紙の内容の説明として適切なものを選択する問題についての正答率が本校は71.9%, 全国は79.7%と7.8ポイント低かった。	・手紙の内容の中心を明確にすることができるように、線を引きながら読み、書かれている内容を確認するよう指導を行うようにする。
読むこと	○国語Aの平均正答率は71.9%, 全国が70.2%で、1.7ポイント上回った。 ●目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題の正答率は65.6%で、全国74.4%より8.8ポイント低かった。	・文章の中から必要な情報を見つけることに課題が見られた。音読をするときに、大切なところに線を引いて読んだり、資料を読み取る際のポイントを指導したりして読む力を伸ばす指導を行うようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○国語Aの平均正答率は全国と同じ78.0%であった。 ●参加「たいしょう」の字を正しく書けない傾向が見られた。正答率が32.8%で全国42.0%より9.2ポイント下回った。	・同音異義語がきちんと書き分けられていないため、普段の漢字練習の際に同音異義語を調べたり、授業でミニテストを行ったりして正しく身につけさせたい。 ・ほかの読み書きの設問は8割を超える正答率だったので、引き続き漢字の学習にきちんと取り組ませたい。前学年の漢字についても、朝の学習を中心に復習に取り組ませていく。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

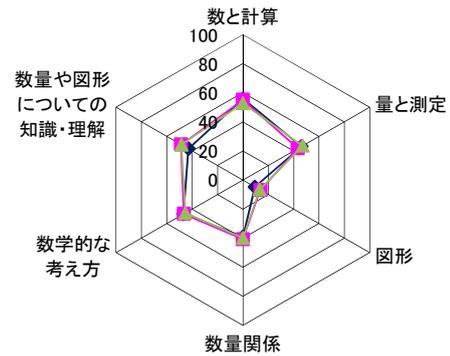
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.6	82.9	80.6
	量と測定	68.8	72.5	68.8
	図形	81.3	80.8	81.1
	数量関係	83.4	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	82.0	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	79.0	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.9	55.1	52.8
	量と測定	46.1	43.4	47.0
	図形	9.4	13.8	13.2
	数量関係	39.1	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	46.9	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	43.0	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Aの平均正答率は81.6%、全国は80.6%で1ポイント上回った。 算数Bの平均正答率も55.9%で、全国の52.8%を3.1ポイント上回った。 ●算数Aの加法と乗法が混合した計算の本校正答率が65.6%で、全国の66.6%を1ポイント下回った。	・乗法の基本となるかけ算九九については、今後も百マス計算を継続的に行うことによりしっかりと身につけさせ、正しく計算できるよう指導していく。 ・「6+0.5×2」のような計算の順序を正しく理解できていない傾向があるため、計算の順序についてしっかりと復習させる。
量と測定	○算数Aの平均正答率は全国と同じ68.8%であった。 算数Bの正答率が46.1%で、全国の47.0%を0.9ポイント下回った。 ●算数Bの平均の考えを用いた応用問題の正答率は26.6%で、全国の26.1%を0.5ポイント上回ったものの、応用問題に苦手意識があると考えられる。	・応用問題については、類題や過去問題などを活用して、朝の学習や単元の終わりの時間などに組みませ、慣れさせる必要がある。ドリル学習だけでは解くことが難しいため、機会を見つけできるだけ応用問題にも触れさせる。
図形	○算数Aでは平均正答率は81.3%で全国の81.1%を上回った。 ●算数Bの応用問題については正答率が9.4%と極端に低く、全国13.2%より3.6ポイント下回り、応用問題に対応できない傾向が見られた。	・前学年での既習事項なども時々復習する時間を取るなどして、引き続き図形についての理解を定着させたい。 ・応用問題についてはいろいろなパターンの問題を用意して慣れさせるようにすることで、苦手意識を持たず習ったことをもとに筋道を立てて考えさせるようにする。
数量関係	○算数Aの平均正答率は83.4%で、全国の79.6%を3.8ポイント上回った。 ●算数Bの割合の問題では、正答率が20.3%と低く、全国の29.3%を9ポイント下回った。	・割合の復習問題に取り組ませるときに、グラフ問題も取り入れ、習熟を図る。比べられる量、もとにする量をはっきりと区別できるように指導する。理解度に合わせ個別に声掛けをし、苦手意識を取り除けるよう指導する。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の勉強が大切だと思いますか。」の質問では、肯定的な回答割合が本校は80.0%、全国平均は65.7%で大きく上回っている。算数についても本校の肯定的解答割合は76.9%で、全国72.9%を上回っている。学習への意識は高く、必要性も十分に感じていると考えられる。

○「学校に行くのは楽しい。」「学級で協力してうれしかったことがある。」の質問に対しては、全国平均を上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている。」の質問に対しては、肯定的な回答割合が全国平均を28ポイント上回っている。今後も児童一人一人のよさを認めながら、クラスの中に自分の居場所があると感じられる、そして学校は楽しいと思える環境づくりに努めていきたい。

○学校のきまりを守って生活していると回答している児童の割合が、全国平均を大きく上回っている。落ち着いて生活している児童が多いといえる。

○「授業の中、話し合う活動をよく行っているか。」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っているか。」の質問では、肯定的な回答割合がともに全国平均を上回っている。今後も授業の中で友達と話し合う活動や、学習を振り返る活動を積極的に取り入れていきたい。

●400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと回答している児童の割合が高い。授業の中で自分の考えを整理し、文章にする機会を増やしていく必要性を感じる。

●「普段、1日あたりどれくらいの時間読書を読みますか。」の質問では、「10分より少ない。」「全くしない。」の回答割合が全国平均を上回っている。また、「普段、1日あたりどれくらいのテレビやビデオ・DVDを見ますか。」の質問では、「4時間以上見る。」と回答している児童の割合が全国平均を大きく上回っている。テレビやビデオ・DVDを見る時間を読書に充てられるよう、学校図書館の活用を充実させていくとともに、家庭にも読書の奨励を行ってきたい。

●家で学校の宿題をしていると回答している児童の割合は、全国平均とほぼ変わらないが、予習・復習に関する質問では、ともに「あまりしていない。」と回答している児童の割合が全国平均に比べ10ポイント以上高い。宿題に予習・復習に関するものを取り入れたり、自主学習においても、積極的に予習・復習に取り組んでいけるよう支援していきたい。

宇都宮市立西が岡小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「みんなが、楽しく、分かる、できる授業づくり」～インクルーシブ教育の視点を取り入れた国語科授業の展開～に基づき校内研修を行い、「書くこと」の指導事項である構成や記述に焦点を当てて指導方法を工夫する。	授業の中で、自分の考えを書く活動の時間を確保し、意図的に位置付ける。文章を視写する時間を確保する。また、宿題に出したり文章を書くミニテストを行ったりして、書くことに慣れさせる。	「書くこと」に関する問題の平均正答率は市より約2ポイント低かったが、全国平均とはほぼ同じであった。 手紙の後付けについては市平均より4ポイント、全国平均より7ポイント高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は5年生では市の平均を上回っていたものの、4年生では市の平均より10.0ポイント下回っている。	計画的に家庭学習に取り組むことの意義や保護者の支援の必要性について伝え、啓蒙を図る。	計画的に家庭学習に取り組むことの意義や保護者の支援の必要性について伝え、啓蒙を図る。 保護者の児童への声掛けがやる気や根気を育てる重要性を、学年・学級懇談や学年通信等あらゆる機会を通じて保護者に知らせ、理解を深める。